

来賓挨拶

高知女子大学学長 池川 順子

一言ご挨拶を申し上げます。学会員の皆様、今日は本当にご苦労です。ここに講師のお二人の方のお名前が出ていますが、片一方は池川清子さんで、もうお一人の方は高野順子さんです。私はその両方の名前を合わせた池川順子ですので、大変嬉しく思っています。私の名前がこのように発展したように高知女子大学の看護学科の発展も、とまあ変なこじつけですけども……。

私がここでご挨拶させていただきますのはこれで4回目でございます。というのは私が学長になり4年になったわけですが、この間本当に看護をめぐる、看護の量と質をめぐる凄まじい動きというのが非常に加速されてきたように感じます。もう私がここで改めて申す迄もなく看護の理論と技術の追求を4年制大学として、つまり質の面での追求を最初に始めた、我国で初めての大学、高知女子大学看護学科は、昭和27年創設ですからもう40年をこえました。定員が、一学年僅か20人ですけども、今までの卒業生がちょうどこの春で810人ということになりました。今世紀中かかって1,000人になるかならないかという感じですが、看護学部ができて、定員増があって、40人、50人といった定員になれば、どうにか1,000人を達成するかな、けれども卒業生が出る迄にはちょっと時間がかかります。そんなことも考えたりしているこの頃です。こんな少ない人数ですが、本当に高知はもとより全国各地に種を播いて、そして大きなものを実らせてきたこの看護学科です。この3月に山崎智子会長、藤田佐和さんなどがまとめた“高知女子大学看護学科卒業生の動向と職業的指向性”という論文が紀要の中にございます。そういったものを見ましてもその姿がよくできています。その中で看護学科へ卒業生はどんな期待をするかというのがありますが看護学部設置は勿論のことですが、さらに大学院を設置というのが圧倒的に多くなっております。

この4月15日、私は兵庫県立看護大学の開学式に出席いたしました。世界の建築界の奇才といわれている安藤忠男という方が設計された、大変シュールという言葉はむしろ古いんですが、素晴らしい環境の素晴らしい建築の兵庫県の新しい大事な宝です。「万葉の頃からわが国の風光明媚な土地といわれている明石、その再開発の美観地区としての核としたい」といったような挨拶を明石市長さんもされました。非常に皆さんに大事に育てられて期待されています。またそれだけではなく、勿論日本の看護学への貢献という役割を担ったこの大学の最初の学長になられた方が南裕子さんで、この高知女子大学の卒業生です。国公立・公立は46大学日本にあります。あまり私は自分を女性女性というのは面映ゆいんですが、人がそう言ってくれますので女性であることには間違いのないでしょうが、国公立最初の女性学長と言われてたんですが、南さんが二番目で同じ高知女子大学卒業生で、一・二がそうなったわけです。46公立大学の学長会がこの前あり南さんも出てこられて大

変嬉しく思っております。それで、その兵庫県立看護大学の開学式へ行きましたらなにか同窓会みたいなイメージなんですね。講師以上の先生方の三分之一が卒業生という事です。また看護協会が出しています看護という雑誌があります。その5月号これは特集ですが「看護大学その作り方から魅力まで」というテーマです。その中に高知女子大学の野嶋教授も“我国最初の大学における看護教育”という文章を書かれておりますし、卒業生も複数その中で発表をされております。全国的なこうしたいろいろな看護の質・量への広がりの流れの中で、そのルーツであり推進役であり続けた高知女子大学看護学科、そして卒業生の皆さんです。さきほど会長は「大きな怒涛のような流れの中で複雑な思いもある」ということを申されましたが、本当にこういう伝統があり、実績を積み重ねてきた私どもの大学の看護学会です。そして看護学科が益々今後発展するためには皆さんが今日お集まりのような経験・実践・理論を交流し合うということもそのひとつの力になると思いますし、先ほど会長が言われたような大学改革の中での、発展というものこれも私大変責任を感じながら、皆さんと一緒にやっていかなければいけないと思っています。卒業生の皆様の絆をこういう交流の場でも深めながらよろしくお願ひしたいと思います。この学会のご成功を祈って私のご挨拶といたします。